

共育の丘だより 第9号 2018夏

山口大学 大学教育機構 大学教育センター ニュースレター



「山口大学は、教えるだけの教育ではなく、

教員と学生、あるいは地域と一体となって

発見し・はくくみ・かたちにすることで共に高め合い、

未来を拓く『共育』を目指しています」

『2014 山口大学案内』より

共育の丘（山口大学 吉田キャンパス）

巻頭言

昨年度、文部科学省の「大学教育再生加速プログラム（AP）」の取組の進捗状況等について中間評価が行われ、本学は最高のS評価をいただきました。これもひとえに熱心に取り組んでこられた教職員・学生の皆さま、また適切なアドバイスと叱咤激励をいただいたアドバイザー・外部評価委員の皆さまのおかげと心より感謝いたしております。今回いただいた評価に過信することなく取り組んでいかなければと思っています。

一方、共通教育では昨年度の英語のカリキュラムに続き、今年度は情報処理関係科目の改訂を行いました。これは、全学の学生が数理・データサイエンスに関する素養を身につけるため、全学共通科目である「情報リテラシー演習」、「情報セキュリティ・モラル」に数理・データサイエンス関連の内容を取り込み、名称を「データ科学と社会Ⅰ」、「データ科学と社会Ⅱ」に改訂したものです。この授業では、情報および情報手段を主体的に選択し、正しく活用するための基礎的な知識・技能を身に付け、文系理系の別なくデータサイエンスの概要を理解するとともに、学生の専門性に応じた実践例や、産業界における応用例などの実践的内容についても学ぶ予定です。また、この改訂とともに、大学教育センターの下に「データサイエンス教育推進室」を設置しました。この推進室を中心に、当該授業の円滑な実施と更なる充実を図っていきたいと考えています。

（菊政 勲 山口大学 大学教育機構 大学教育センター長）

INDEX

P1	巻頭言
P2-3	共育ワークショップ2018
P4-5	学生FDサミット2018春 参加記
P6-7	学都やまぐちトークライブ &やまぐち探訪記
P8	編集後記

【※ 本ニュースレターは、山口大学基金「学生の就職支援・教育環境の改善等助成事業」の支援を受け、編集・刊行しています。】

共育ワークショップ2018

「みんなで教育（共育）について語ろう！」

～大学と高等教育による授業協奏曲～



2018年3月15日（木）、共育ワークショップ2018「みんなで教育（共育）について語ろう！ ～大学と高等学校による授業協奏曲～」を本学共通教育棟（吉田キャンパス）にて開催し、学内外から90名（学内38名（教職員27名、大学生11名）、学外52名（教職員31名、大学生6名、高校生14名、高専生1名））が参加しました。共育ワークショップは、大学教育センターが主催し、大学の教育（共育）について、学生、教職員が一緒になり、様々な観点から語りあい、考えてみるというもので、2013年度から始まり、今年で5年目となります。今回は、2014年12月公表の中央教育審議会答申『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）』を受け、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革



が進み、2016年3月『高大接続システム改革会議「最終報告」』のほか、学習指導要領が大きく変わろうとしている中で、生徒や学生の確かな学力を育成することを目的に、「主体的・対話的で深い学び」を促すアクティブラーニングの視点による授業改善が学校種を超えた共通テーマとなっており、大学関係者と学校関係者が一緒になって、教育について考える場を提供しました。なお、本ワークショップは、山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）中間成果交流会として開催しました。はじめに、岡 正朗 学長より開会挨拶があり、近年の高大接続改革の重要性に言及しながら、大学生や高校生を交えて授業のあり方等について対話する今回のワークショップへの期待が述べられました。

プログラム

14:00～14:10 開会挨拶 山口大学長 岡 正朗

14:10～14:50 【1限目：基調講演】

「生徒・学生が輝く『学び』とは」 NPO法人カタリバ代表理事 今村 久美 氏

（休み時間（教室移動））

15:00～15:45 【2限目：大学×高等学校による模擬授業】《選択制》

①大学の模擬授業（1）

「目に見えない世界を科学する ～微生物バイオテクノロジー概論～」

山口大学創成科学研究科（農学系）准教授 藤井 克彦 氏

（山口大学第2回アクティブ・ラーニング（AL）ベストティーチャー）

③高等学校の模擬授業（1）

「ビジュアル教材でイングリッシュ

～子供のときの思い出・選択と幸せの関係～」

山口県立西京高等学校 英語科教諭 和田 将太 氏

②大学の模擬授業（2）

「みんなの世界をビジュアル化 ～ものづくりのキャッチボール」

徳山大学経済学部 知財開発コース教授 なかはら かげ 氏

④高等学校の模擬授業（2）

「三角形の心の探究 ～心の相互関係～」

野田学園高等学校 数学科教諭 河本 順康 氏

（休み時間（教室移動））

15:55～16:55 【3限目：ダイアログ・セッション】

「大学の授業と高等学校の授業ってどうなの？」

模擬授業担当教員×大学生×高校生

16:55～17:00 閉会挨拶 山口大学理事・副学長 福田 隆真



1限目：基調講演では、認定NPO法人カタリバ代表理事 今村久美氏より「生徒・学生が輝く『学び』とは」と題して、今村氏自身の高校生時代や大学生時代の経験を紹介しながら、高校生と大学生のナナメの関係を活かした対話の場「カタリ場」を提案した経緯などを話し、現在の若者への期待や可能性についてメッセージを送りました。山口県内で実施している「カタリ場」に関わっている山口県立大学生との本音トークや、「カタリ場」を受講した山口県立西京高等学校の高校生からの感想など、盛りだくさん内容が提供されました。

2限目：大学×高等学校による模擬授業では、山口大学、徳山大学、山口県立西京高等学校、野田学園高等学校の教員から、それぞれ趣向を凝らしたアクティブ・ラーニング型授業が提供されました。

参加者は事前に希望した授業を各教室に分かれて受講しました。山口大学 藤井 克彦 准教授の模擬授業では、微生物バイオテクノロジーの学術的概念や現実社会での微生物の生態など、最先端の研究内容を学びました。徳山大学 なかはら かぜ 教授の模擬授業では、4コマ漫画を作図するというワークが課され、ストーリー展開を考えながら、自らの考えをイラスト化するという授業を体感しました。山口県立西京高等学校 和田 将太 先生の模擬授業では、授業中は英語のみによるグループ対話・質疑応答に終始し、子供のときの自らの経験などを英語で表現する授業を体感しました。野田学園高等学校 河本 順康 先生の模擬授業では、三角形の重心・内心・外心・垂心について、正三角形、二等辺三角形、直角三角形の3グループに分かれ、ジグソー法を活用した相互学習を体感しました。



3限目：ダイアログ・セッションでは、山口大学 大学教育機構 大学教育センター 林 透 准教授のファシリテーションのもと、11グループ（1グループ5～6名）に分かれ、模擬授業を受けた感想や気づきを話し合いながら、「大学の授業への期待や要望」「高等学校の授業への期待や要望」についてリストアップしました。最後に、「大学の授業への期待や要望」「高等学校の授業への期待や要望」のうち、最も大事だと思ったアイデアをスケッチブックに書き出し、全体発表を行いました。各グループから 高校生または大学生が代表して積極的に発表する姿が印象的でした。「考える楽しさを感じられる授業」「将来やりたいことが見つかるような興味が持てる授業」「色々な価値観や意見が知りたい、柔軟に考えたい」「答えのない活動をする中で自分の考えを自由に共有できる空気づくりが大切」「アウトプットする機会が欲しい」「（生徒と教師が、）授業を一緒に作る」などの提案があり、今後の大学や高等学校の授業充実に役立てることとなりました。

最後に、福田 隆真 副学長より閉会挨拶があり、今後もこのような大学と高等学校の交流の機会を作っていきたいとの言葉が述べられました。



山口大学 共育ワークショップ 2019
みんなで教育共育について語ろう！
 ～大学と高等学校による授業協奏曲～
 平成30年 3月15日(日) 14:00-17:00
 会場 山口大学共通教育棟(新館5F)515
 主催 山口大学共育推進委員会(新館5F)515
 協賛 山口大学、山口県立西京高等学校、山口県立徳山高等学校、山口県立野田高等学校

プログラム
 14:00-14:10 開会挨拶 山口大学 副学長
 14:10-14:30 基調講演 認定NPO法人カタリバ代表理事 今村 久美
 『生徒・学生が輝く『学び』とは』

模擬授業
 15:00-15:45 1. 山口大学×高等学校による模擬授業
 2. 山口大学の模擬授業(1) 『人に与えたい学びをデザインしよう』
 3. 山口大学の模擬授業(2) 『みんなの世界をシェアしよう』
 4. 山口大学の模擬授業(3) 『授業の準備と実践』
 5. 山口大学の模擬授業(4) 『授業の準備と実践』
 6. 山口大学の模擬授業(5) 『授業の準備と実践』
 7. 山口大学の模擬授業(6) 『授業の準備と実践』
 8. 山口大学の模擬授業(7) 『授業の準備と実践』
 9. 山口大学の模擬授業(8) 『授業の準備と実践』
 10. 山口大学の模擬授業(9) 『授業の準備と実践』
 11. 山口大学の模擬授業(10) 『授業の準備と実践』
 12. 山口大学の模擬授業(11) 『授業の準備と実践』
 13. 山口大学の模擬授業(12) 『授業の準備と実践』
 14. 山口大学の模擬授業(13) 『授業の準備と実践』
 15. 山口大学の模擬授業(14) 『授業の準備と実践』
 16. 山口大学の模擬授業(15) 『授業の準備と実践』
 17. 山口大学の模擬授業(16) 『授業の準備と実践』
 18. 山口大学の模擬授業(17) 『授業の準備と実践』
 19. 山口大学の模擬授業(18) 『授業の準備と実践』
 20. 山口大学の模擬授業(19) 『授業の準備と実践』
 21. 山口大学の模擬授業(20) 『授業の準備と実践』

ダイアログ・セッション
 15:55-16:55 『大学の授業と高等学校の授業ってどうなの？』
 模範校校長先生と大学教員による対話

16:55-17:00 閉会挨拶 山口大学 副学長

山口大学 大学教育機構 大学教育センター (YU-AP) 事務局
 〒753-8585 山口県山口市 電話 083-859-5281 E-mail yuap@yup.or.jp

学生FDサミット2018春

～IN 法政大学～



3月8日～3月9日において、法政大学で学生FDサミットが開催されました。目的としては、全国の大学において教員組織、学生組織の向上を目指す有志達との意見交換会ならびに講演会を通して新たな向上を目指すというものでした。

1日目は基調講演ならびに分科会、そして、ポスターセッションが行われました。山口大学はポスターセッションにて展示を行いました。

基調講演では京都大学の服部氏による仕掛け学を使った「今後の学生FDへの期待」を講演していただきました。分科会では4大学による具体的な取り組みをそれぞれ30分程聞きました。基調講演では抽象的、体系的な内容で、分科会では具体的、実践的な内容で、FD向上のための体系を学ぶと同時に実践的な取り組みを学ぶことができました。

ポスターセッションでの山口大学のポスターの内容は1つ目は大館で行われるアートふる山口の学生組織の参画についてで、2月に課外活動として行われた授業から7ヶ月に渡る打ち合わせや参画の経緯、そして成果などを報告しました。当日は244人の子供たちが来てくれ、大盛況となりました。「地域に山

大生が関わっているということが「アートふる山口」への参画により周知され、244人の子供達が山口大学に入学してくれればいいなあなんて」と切実に思います。2つ目は山口大学の正門のイルミネーションツリーについてです。学生が主体となって飾り付けや企画を行いました。最後は Learning Catalog という就活を終えた人にインタビューをするというものです。これは、様々な生き方を学ぶという意味で海外留学や休学しインターをした方などといった就活への道は一本ではなく様々なルートやレールを自分で敷くことができることを伝え、今から就活に挑む人達向けの企画です。また、このポスターセッションではリーダーである廣本さんと堀井さんの手腕により最優秀賞をとることができました。

2日目は「しゃべり場」を行いました。「しゃべり場」とは様々な題目に対して、全国各地の学生、教員、職員と議論をします。議論と言うと堅苦しいイメージになりがちですが、肩書きや年齢をボードレスにして話し合います。故にそれぞれの目線に立った意見が出されます。テーマは「これからのFDに期待すること」「FDの具体的な取り組み案」です。それらについてのグループ発表を最後に行うことで、他大学との共有を大いに図ることができました。このように2日間を通して思ったことは「学校教育をよくしたい。学生の質を向上させたい。」と志を持った学生が一同に集まる場であり、我々学生としても知の集結や取り組みの波及の期待という意味でFDサミットに参加した意義は大いに感じられました。

2日目は「しゃべり場」を行いました。「しゃべり場」とは様々な題目に対して、全国各地の学生、教員、職員と議論をします。議論と言うと堅苦しいイメージになりがちですが、肩書きや年齢をボードレスにして話し合います。故にそれぞれの目線に立った意見が出されます。テーマは「これからのFDに期待すること」「FDの具体的な取り組み案」です。それらについてのグループ発表を最後に行うことで、他大学との共有を大いに図ることができました。このように2日間を通して思ったことは「学校教育をよくしたい。学生の質を向上させたい。」と志を持った学生が一同に集まる場であり、我々学生としても知の集結や取り組みの波及の期待という意味でFDサミットに参加した意義は大いに感じられました。

2日目は「しゃべり場」を行いました。「しゃべり場」とは様々な題目に対して、全国各地の学生、教員、職員と議論をします。議論と言うと堅苦しいイメージになりがちですが、肩書きや年齢をボードレスにして話し合います。故にそれぞれの目線に立った意見が出されます。テーマは「これからのFDに期待すること」「FDの具体的な取り組み案」です。それらについてのグループ発表を最後に行うことで、他大学との共有を大いに図ることができました。このように2日間を通して思ったことは「学校教育をよくしたい。学生の質を向上させたい。」と志を持った学生が一同に集まる場であり、我々学生としても知の集結や取り組みの波及の期待という意味でFDサミットに参加した意義は大いに感じられました。

(経済学部3年 川田海栄)

プログラム

〈1日目：3月8日（木）〉

- 11：30～12：30 受付開始
- 12：30～12：45 オープニング
- 12：45～13：45 基調講演
- 14：00～16：30 ポスターセッション&分科会
- 17：00～18：30 情報交換会

〈2日目：3月9日（金）〉

- 9：30～10：00 受付開始
- 10：00～11：00 2日目ガイダンス
- 11：15～15：00 テーマ別しゃべり場・グループ発表
- 15：30～16：00 全体振り返り・クロージング



参加者からの便り



人文学部3年 堀井さやか

学生FDサミット2018春のポスターセッションの部において、山口大学の作品が大賞を受賞したことをとても嬉しく思います。私は大学2年からY U - A P 学生スタッフとして活動を始め、アートふる山口や大殿七夕ちようちん祭りといった地域のお祭りや、学内のクリスマス照明企画など、様々なイベントにかかわらせていただきました。ポスターを作るにあたって、そうしたイベントや地域の方々との交流をどのように表現すればいいか、同じY U - A P 学生スタッフである廣本さんと相談しながら作り上げていきました。ポスターの内容はもちろん、「クリスマスの照明企画で作ったメッセージカードを横に添えてみたらどうか?」、「目を引くために山口大学のマスコットキャラクターを飾ってみたらどうか?」などと意見を出し合い、試行錯誤しながらの作業は大変でしたが、それ以上にとっても楽しくやりがいを感じました。

数あるポスターの中から、私達山口大学Y U - A P 学生スタッフのポスターが選ばれたことは本当に嬉しく、光栄に思います。また、今回のポスターセッションで他大学の取り組みについて学ぶことができたことも、私にとってとても貴重な経験になりました。このポスターセッションで学んだことを生かし、これからもY U - A P 学生スタッフとして様々な活動に積極的に取り組んでいきたいと思っています。



経済学部2年 杉本寛晟

私は初めて学生FDサミットに参加しましたが、参加してよかったと強く思います。その理由として2点あります。1つは、参加大学の講義の仕方や、学生の大学たるものに対する考え、学生の大学での活動などを知ることができたという点です。もう1つは、他大学の教授、職員さんや学生とのつながりができたという点です。これら2つに共通して言えることは、多くの人との交流を通して意見を言い合うことができ、それまでの自分にはなかった考えや価値観を知ることができるということです。

私は、様々な考えを知ることとはとても大事であると考えているので、この機会は私にとってとても有意義なものでした。こうした大学主催の企画には学べるものが多くあるので今後も参加していきたいと思っています。

人文学部3年 廣本明日香

学生FDサミット2018春のポスターセッションでポスター大賞という素晴らしい賞を頂き、とても嬉しく思います。

飾り付けで可愛らしく華やかにするために細かなところまで気を配って作業したり、どうすれば見やすいポスターになるのか話し合っって構図を工夫したりしました。時間のない中のポスター製作に大変だと感じることもたくさんありました。しかし、そういったことも含め評価されたことに、報われたような思いもあり、皆で喜び分かち合うことが出来ました。また、ポスターの中身である、私たちが行ってきた学校内外での活動に関しても、より多くの方に興味を持って見て頂けたのかなと思い、やってよかった、頑張ってたよかったと思いました。

そして、こうして大賞を頂いたことをきっかけに更に多くの方々から私たちの活動について知って頂けると嬉しいです。



学都やまぐち・トークライブ

「地域×学生でミライを描こう！」レポート

【趣旨とねらい】

山口市内中心部は、江戸時代の頃から山口講堂、その後の山口明倫館に始まり、旧制・山口高等学校、さらには、山口大学がキャンパスを構え、文教都市の面影を漂わせていました。現在、その面影は薄れ、大学生がまちなかに日常的に集う風景が少なくなったのではないのでしょうか。「学都やまぐち」という言葉を今一度体現するには、学生が集うまちづくりのため、地域×学生と一緒に考えていく必要があると思います。

そこで、他地域の取組事例に学びながら、地域住民、自治体、大学、学生と一緒に dialogue する機会を設け、今後の検討に活かすこととしたいと思います。

【内容】

2018年2月24日（土）、山口市大殿地区にある「山口ふるさと伝承総合センター2階研修室」を会場にして行われた、『学都やまぐち・トークライブ「地域×学生でミライを描こう！」』には、地域住民や大学生だけでなく、北海道や京都の大学関係者など、総勢約40名が参加しました。昨今のコミュニティ・バースト・ラーニングの関心の高まりを象徴する企画イベントとなりました。

「学都やまぐち」の中心で、地域×学生が盛り上げる3時間のトークライブ。他の地域の取組事例に学びながら、地域住民、自治体、大学、学生と一緒に dialogue しながら、この地域のミライを描いてみよう！

日時 2月24日 土 13:30~16:30

会場 山口ふるさと伝承総合センター 2階研修室
山口市下馬の町1-2番

構成

第一部 トークセッション 13:30~14:50
(1) 『学生のまち』づくりに学ぶ (白根総合市民学習組合)
金沢市 市民協働推進課 主任主事 鈴木 謙 氏
金沢市立大学 学生生活 企画課長 山崎 圭亮 氏
(2) 地域コミュニティに溶け込むリアル青年に学ぶ (高根県益田市学習組合)
高根県益田市教育委員会
ライフキャリア教育コーディネーター (NPO) 寺田 浩一 氏
(3) 地域と学生をつなぐには (山口県山口市の現状と課題)
山口大学 教員 山口県立大学 教員

第二部 ライブセッション 15:00~16:30
本報記者の「地域×学生でミライを描こう！」

【総合企画・実行】山口大学 大学教育連携 大学教育センター 課長 藤原 隆 氏



第一部 トークセッションでは、まず、『学生のまち』づくりに学ぶと題して、金沢市役所 市民協働推進課 主任主事 鈴木 謙氏、金沢まちづくり学生会議 第8期代表（金沢大学 理工学域 機械工学類 3年）山崎 圭亮氏から、学生と市民のつながりを深める全国初の「学生のまち推進条例」を2010年度に施行し、自治体主導で

「学生のまち」づくりを進める石川県金沢市の事例紹介がありました。

次に、「地域コミュニティに溶け込むリアル青年に学ぶ」と題して、益田市教育委員会 ライフキャリア教育コーディネーター（NPOカタリバ所属）檜垣 賢一氏から、子どもたちの生き抜く力を育てる「ライフキャリア教育」に取り組む島根県益田市の事例紹介がありました。檜垣氏の事例紹介では、動画紹介やペアワークを取り入れたアクティブ・ラーニング型の演出で、会場の参加者が笑顔をほころぶ光景が印象的でした。

最後に、「地域と学生をつなぐには（山口県山口市の現状と課題）」と題して、山口大学生と山口県立大学生による活動発表がありました。山口大学からは経済学部3年生（当時）香川万由子さんが大殿地区で開催された「アートふる山口」に関わった体験発表を行い、山口県立大学からは国際文化学部文化創造学科の学生3名が研究室ゼミで取り組む秋穂地区での地域文化継承の体験発表がありました。



第二部 ライブセッションでは、「ワールドカフェ」の手法を用いた対話を通して、参加者各人が各事例を通して、「地域」と「学生・若者」との協働について、気づきや発見を共有し、考えを深め、その上で、「地域×学生でミライを描こう！」をスローガンとして、「未来新聞」へと収束させていきます。参加者全員が「共に創り上げる」ことの意義や「新しい気づき」を実感できるような内容構成としました。地域住民、大学生、自治体職員、大学教職員などが6つのグループに分かれて、ワールドカフェ形式による対話を重ね、最後には、「10年後の未来に、山口市のまちなかで、『地域』と『学生・若者』が協働することが、どのようなカタチになって実現しているかを新聞記事の形式でまとめてみましょう」というテーマのもと、未来新聞づくりを行い、全体発表を行い、地域×学生によるまちづくりの意識を高めました。



やまぐち探訪記 第九回 (徳山)

山口県の特徴は、中規模の都市が各地に点在して、個性ある文化や産業を保有していることです。平成の大合併により周南市となった旧・徳山市の周辺は、まさに、工業都市の様相です。新幹線で徳山駅周辺を通過するときのコンビナート群の風景には、誰しもが驚きを持って視線が釘付けになります。

そんな徳山駅に隣接する形で、周南市立駅前図書館が2018年2月にオープンしました。この公立図書館は、既存の図書館を移設したのではなく、新たに、新設されたということです。

佐賀県の武雄市図書館同様に、蔦屋とスターバックスと融合する形で図書館が配置されていて、「本を借りる」と「本を買う」の相乗効果が生まれそうな感

覚を覚えます。まさに新感覚の空間で、若い女性の姿が目立ちました。市民の方々は、住民の動線が変わったと口々におっしゃっていて、すごい反響です。

そんな徳山には、近年、教育改革を積極的に進められている徳山大学、グローバル高専を志向している徳山工業高等専門学校があります。また、山口県進学校の四天王の一つである徳山高等学校など、人材育成の分野でも重要な一翼を担っています。

山口県東部の中心都市である徳山に、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。
やまぐち探訪記は、まだまだ続きます。





学生スタッフ募集!



オン・キャンパスでジョブ
オフ・キャンパスでチャレンジ



大学教育センター 林 透
083-933-5067



林 透(担当教員)
toru-h@yamaguchi-u.ac.jp



<http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp/>

Our Works!

共育ワークショップ

山口大学の教育(共育)について
学生・教職員が一体となり共にはぐむ場
年に一回開催!



共育の丘だより

大学教育センターでの
活動や広報のため
年に二回発行!



山口大学・大学教育再生加速プログラム (YU-AP)推進事業

2014年秋に採択された全学を挙げての事業
学生・教職員が協働して推進!



SLPの開発

Student Leader Program
リーダーシップ養成
学習相談会(ピア・サポート)
キャリア学習会(就業力支援)...



学生向けの
新・正課外教育プログラムを
教職協働で創造!

学生FDサミット

全国を飛び回って大活躍中!!



オン・キャンパスでジョブ
学修到達度テストの補助業務
学内企画イベントの補助業務
オフ・キャンパスでチャレンジ
学生FDサミットに参加して他流試合
山口市・長門市・周防大島などの体験学習

Contact!

YU-AP推進室
TEL:083-933-5261
E-mail:yuap@yamaguchi-u.ac.jp

編集チーム

林 透
(大学教育センター准教授)
伊藤 千恵美
(教育企画係)

学生メンバー

香川 万由子 (経済学部4年)	原 きく乃 (人文学部2年)
廣本 明日香 (人文学部3年)	杉本 寛晟 (経済学部2年)
堀井 さやか (人文学部3年)	大亀 洋輔 (理学部2年)
岡 寛範 (経済学部3年)	生島 歩 (工学部2年)
川田 海榮 (経済学部3年)	藤井 聖也 (工学部2年)
今徳 凌太 (経済学部3年)	松瀬 可菜子 (農学部2年)
増田 雅也 (国際総合科学部3年)	谷崎 絵美里 (農学部2年)

発行:

大学教育センター
(2018年7月13日 発行)

編集後記

今回は共育ワークショップ2018が開催されました。高校生と大学生が一緒になって授業を受けたり、意見を交わしている姿は今までになく新鮮でした。学生FDサミット2018春には前回参加した2名と初参加の2名の計4名が参加しました。参加してみて様々なことを経験、吸収できたのではないかと思います。さらに今回はポスターセッションにも参加し、それが大賞受賞となり、嬉しいことでした。これを機にますます活躍して欲しいと思います。
(教育企画係 伊藤千恵美)

大学教育は、大学教職員、学生、地域をつなげます